

広
報

あいあい

第73号

令和6年3月15日

発行：西原地域コミュニティ協議会

TEL/FAX：028-635-7139

西原地域コミュニティセンター内

めざせ！ ～地域共生社会～



ふれあい福祉まつり



福祉まつりで「にしはら支え隊」

1月28日、歳末たすけあい配分事業として毎年行われている社会福祉協議会が主催するふれあい福祉まつりが行われた。

西原コミセン2Fでは10時半より「認知症サポーター養成講座」を開催。今回、にしはら支え隊が初めて福祉まつりに参加し企画したものだ。認知症キャラバンメイトの地域包括支援センターようなんの職員とグループホームすみれ大寛の苑の職員による、講座と寸劇やスライド上映、さつきホームクリニックの理学療法士による身体活動についての講話など、短時間に多くのことを学んだ。50名ほどが熱心に聞き入っていた。終了後には「認知症サポーターの証」が渡された。

校庭では、体協によるグラウンドゴルフ体験が行われ、参加した子どもたちはたくさんのお品にも大喜び。また、11時30分には、早朝から準備していた餅や豚汁の無料配布が始まった。設置されたテーブルと椅子は大勢の地域住民であふれ、つきたての餅や温かい豚汁に舌鼓を打った。

暖かい陽射しの中、お腹も心も満たされた一日となった。

* 主な内容 *

- 表紙 ふれあい福祉まつり
- 2P 地域PTA文化祭
- 3P 防災を考える

★復活だ!
西原地域PTA文化祭



11月19日、4年振りの西原地域PTA文化祭が行われた。
校庭では一条中合唱部や児童による西原ソーランが雰囲気盛り上げ、青少年育成会、PTA/OBOG、YCCらが、たこ焼きや、餅、焼きそば、パンなどを販売。また子ども参加型の催しも充実。消防第2分団のポンプ車展示、社協による車椅子体験などにも関心が集まった。
地域作品展は、コミセンで18日19日の2日間開催された。似顔絵コーナーや、コミセンで活動しているサークルの多くの作品が展示され、訪れた人たちは見事な出来栄に賞賛し、談笑しながら鑑賞していた。天候にも恵まれ食欲に文化に、秋を満喫した。



◆自治会長研修旅行



12月7日、「LRTの車窓から見る宇都宮の新しい風景」と題した研修旅行に17名が参加した。
宇都宮駅東口からLRTに乗り込み40分、管理センター前からはバスに乗り換え益子方面へ。株式会社あやねでは、高品質無農薬バナナの栽培を見学した。また、人間国宝濱田庄司記念参考館では、民芸運動の精神に触れ、多くの生活工芸品を鑑賞した。



◆体育館の修繕工事終わる

昨年7月より西原小体育館の改修工事が行われてきたが、2月19日工事を終了し、引渡しが行われた。
玄関や校舎からの入り口にスロープが設置され段差に悩まされることなくなった。また、トイレは全面的に改修、みんなのトイレも設置された。床や天井も張り替えられ、緞帳も新しく、全体的に明るく生まれ変わった。



お知らせ

第51回新川さくら祭り開催!
日時/3月31日(日) 10時から
場所/新川畔台陽寺駐車場
出演/西原お囃子会・一条中合唱部・吹奏楽部
*ぼんぼり点灯は
3月23日から4月7日を予定
新川通水は3月18日から4月8日
詳細は回覧をご覧ください。

★第34回
西原どんど焼



1月14日、西原小校庭で34回目となる、西原どんど焼が開催された。
午前中より校庭には、紅白のまゆ玉が四隅に飾られたお焚きあげ場が設えられ、地域住民より寄せられた正月お飾りやだるまなどが次々に積み上がった。お飾りのプラスチック分別作業は例年通りYCCが行い、消防車が待機する中、午後1時、点火式が始まる。神職の祝詞とお払い後にいよいよ点火となった。
テントでは、焼きそば、豚汁、甘酒などが販売され、多くの家族連れが模擬店に並んだ。例年以上の参加者で、燃える炎に無病息災を祈り、伝統を受け継ぐ地域の人々の強い意志が感じられた。

●防災を考える

能登半島を元日に襲った最大震度7の地震は、240人を超える命を奪った。インフラの復旧も未だ途上にある。
栃木県は大規模災害が比較的少ないと言われるが、今後30年以内に6弱以上の揺れの確率は12.7%というので、防災を怠ってはならない。また、暮らしやコミュニティ再建には何が必要なのか。西原地区の防災会では現在大幅な見直しを行っている。令和6年度には新体制が施行される予定だ。私たちは自分のできる範囲での防災や支援を常に考えていきたい。



西原地区
能登半島地震災害義援金報告

- ◎西原どんど焼募金箱 42,404円
- ◎民児協 10,000円
- ◎連合自治会 334,600円

日本赤十字社栃木県支部を通じ被災地へ送金されます。協力ありがとうございました。

いにしえ
古を訪ねて

園部 三郎 (100歳)
花園町西部



宇都宮大学在学中に徴兵されスパイ教育をうけた。そのため復員後、教員免許剥奪。東宝映画(株)で俳優になりエノケンや片岡千恵蔵と舞台を踏んだ。しかし、芸能界は肌に合わず2年で石橋の実家に戻った。当時の県知事、小平氏が同郷であった縁で県庁職員に採用された。
文化不毛の地を打破するために新設された文化振興係に配属。毎年「芸術祭」を開催し、それを催す建物を知事に陳情し栃木会館が生まれた。こけら落としでは自ら「孫悟空」を演じて、宇都宮のエノケンと評判になった。以来70年「芸術祭」は、盛大に行われている。

その手腕を買われ東武宇都宮百貨店の設立に携わる。社員募集40名のところ800人の応募があり、面接を一条中学校の体育館で行った。さらに手腕を買われ、下野新聞社新社屋建設事業を任せられた。資金調達、本社跡地(現、下野新聞社ビル)の有効利用に奔走した。半世紀に及ぶその活躍は、栃木県の文化振興、経済マスコミの発展に多大な功績を残した。百歳を超えた日々は釣りや俳句などの趣味に興じる。長生きの秘訣は「挑戦すること!」と目を輝かせた。



あいあいサイト

◆楽しかったスキー教室

スキー教室が、2月18日、たかつえスキー場で開催された。23名が参加。11名のスタッフが指導にあたった。天候にも恵まれ気温も高く、汗をびっしょりかいて喉がかわくほどだった。帰りのバスでは、スキーを満喫して熟睡していた。



◆年末防犯・防火パトロール

毎年、地域の防犯活動の一環として「安心・安全のまちづくりパトロール」を実施しているが、今年は18自治会が参加した。

新町2丁目西自治会では、12月16日(土)17日(日)の2日間実施し39名が参加し、子供達の元気な掛け声「火のようーじん」と拍子木が町内に響いた。



◆西原老連の集い開催

1月19日、西原地区老人会の会長会があった。佐藤会長から「高齢者を取り巻く状況は旧態依然、このままでは老人会の存続が危ぶまれる。情報交換をしつつ、知恵を出し合おう」と挨拶があり、人生100年時代、65歳ぐらいで高齢者と呼ばれるには抵抗があり、会員増加が図れないなど、熱心に意見交換が行われた。

1月30日は「オーラルフレイル予防と対策について」と題する宇老連主催の研究も行われ、活発な活動が伺えた。



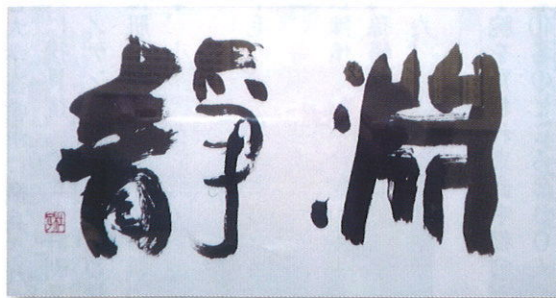
◆「シニアカフェ」でフレイル予防

健康づくり推進員会では、今年度も地域住民の参加を募って、料理教室や健康体操を行った。

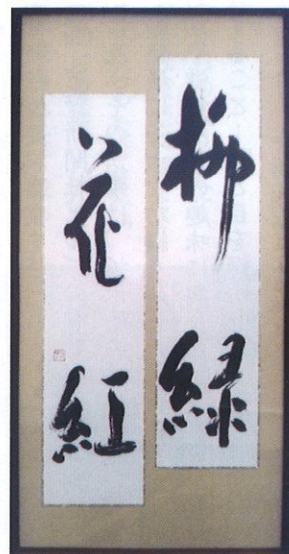
10月30日には、花房本町集会所を会場にシニアのためのフレイル予防の講座を行った。参加者20名は4班に分かれ、脳トレ・体操・ちぎり絵・お好み焼き作りを一巡してフレイル予防の大切さを学んだ。最後には、輪になって座り、風船パレーで快い汗を流した。参加者からは、来年もまたやって欲しいとの声が聞かれた。

●趣味ゆうゆう

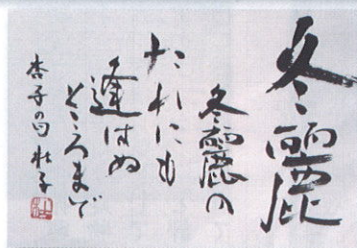
書道 小林トシ(花房2丁目)



静淵



柳緑花紅



冬麗



あとがき

能登半島地震に胸が苦しくなる。もうひとことではない。教訓を記憶に刻み、何が起きようとも前に進める自分になるために、今日を精一杯、頑張ろうと思う。